

## 特別講演 1

# 「H. pylori 陰性時代における酸関連疾患の治療戦略」

洛和会音羽病院副院長／消化器病センター所長

蘆田 潔 先生

高 H.pylori 感染率時代の酸関連疾患の主体は消化性潰瘍であった。

一方、低 H.pylori 感染率の現在、酸関連疾患の中心は胃食道逆流症（GERD）や NSAIDs/アスピリン潰瘍になっている。

H2 受容体拮抗薬、プロトンポンプ阻害薬は H.pylori 陽性時代の酸関連疾患の治療に多大な貢献を果たした。

しかし、両薬剤は H.pylori 感染の有無によって酸分泌抑制効果が左右される。

ボノプラザンはプロトンポンプを阻害するので広義の PPI であるがその作用機序は新規であり、カリウムイオン競合性アシッドブロッカー、P-CAB である。

ボノプラザンは H.pylori 感染の有無に関わらず迅速で安定した酸分泌抑制が得られる薬剤であり、H.pylori 陰性時代の酸関連疾患の治療戦略に新展開がもたらされている。